



*I recognize a cat as a cat.*

Gallery P A R C  
GRAND MARBLE

*I recognize a cat as a cat.*  
私は猫を猫として認識する  
林勇氣



本展の画像

## 私は猫を猫として認識する : I recognize a cat as a cat.

2012年にgoogleの開発したAIが約1000万枚の画像を見続け、人から教えられる事なく猫を猫として認識した。人の思考や知覚が電気信号であるならば、AIに無数のデジタル画像はどのようにみえたのだろうか。もっと多くの事が出来るようになった時に、世界をどのようにみるのだろうか。また、人の視覚やデジタル画像との関係性、現実との関係性はどのように変化していくのだろうか。AIとAIに不可欠な膨大な量の画像データを通して現在と未来の像の在り方について考えていきたい。

本展ではデジタル画像の在り方を問う《IMAGE DATA》の最新作と、様々な動物のドローイングをAIが組み込まれた画像生成プログラムによって猫のイメージへと変換させアニメーションを制作した新作《Chimera》などを展示する。

林 勇気

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]は2017年11月17日[金]から12月3日[日]まで、林勇気による個展「私は猫を猫として認識する:I recognize a cat as a cat.」を開催いたします。

1997年より映像作品の制作を手がける林勇気(1976年・京都生まれ)は、2011年の個展「あること being/something」(兵庫県立美術館)、2014年の個展「光の庭ともうひとつの家」(神戸アートビレッジセンター)、「窓の外、恋の旅 -風景と表現」(芦屋市立美術博物館)、2016年の「PAT in Kyoto 京都版画トリエンナーレ」(京都市美術館)、個展「電源を切ると何もみえなくなる事」(京都芸術センター)、2017年の「彼方へ Shizubi Project 6」(静岡市美術館)など多くの美術展への参加のほか、「FILMS D' ANIMATION #1」(MAISON POPULAIRE / フランス・2013年)、「アンカラ国際映画祭」(トルコ・2015年)、「京都国際映画祭」(京都・2016年)など、国内外の多くの映画祭へ作品出品するなど、幅広い領域で活動しています。

これまで林は、自身(あるいは他者)の撮影した膨大な量の写真をデジタルライズし、それらを切り抜き・重ね合わせることで制作されたアニメーションを多く発表しており、「その制作プロセスと映像イメージは、インターネットやテレビゲームを介しておこなわれるコミュニケーションのあり方を想起させる」としています。これらの作品においては、「私 / 世界」に紐付いていた「何処かの / 誰かの / 何か」だったモノ・コトが、写真、デジタル写真へと物質から引き剥がされ、また背景や状況から切り抜かれることで個々の関係や記憶から分断された、膨大な「個(点)=データ」の集合で満ちる「デジタル世界」のあり様をヴィジョンとして提示します。

わたしたちは「せかい」を、手と目で触れ、言語で捉えることのできる具体的なモノ・コトと、言語と視覚によるイメージや概念の両極によって捉えているのではないのでしょうか。そして、その「個」と「膨大」の両極を「私」が繋ぎ・補完するなかに「世界」を認識しているといえるのではないのでしょうか。林勇気の提示する、膨大なモノ・コトが漂うようにスクロールしていくヴィジョンは、確かに世界を「個」と「膨大」といった両極のによって捉えたものであるといえ、同時に私たちはそのヴィジョンそのものを「風景」として眺め、あるいは膨大に漂う孤立した点を再び結び、そこに「世界」という物語の「存在」をも感じることがあります。その鑑賞の中では「わたしとせかい」と『私と世界』は常に領域の曖昧なメタ構造を形成していることを、つかの間体験することができるのではないのでしょうか。

本展では「デジタル画像」の在り方を問う《IMAGE DATA》の最新作とともに、林の近年の興味対象である「AI(Artificial Intelligence)」を「わたし(たち)」の鏡写しとして、その振る舞いを注視することで「認識そのもの」の在り方を問いかける新作によって構成されます。

Gallery **P A R C**

GRAND MARBLE

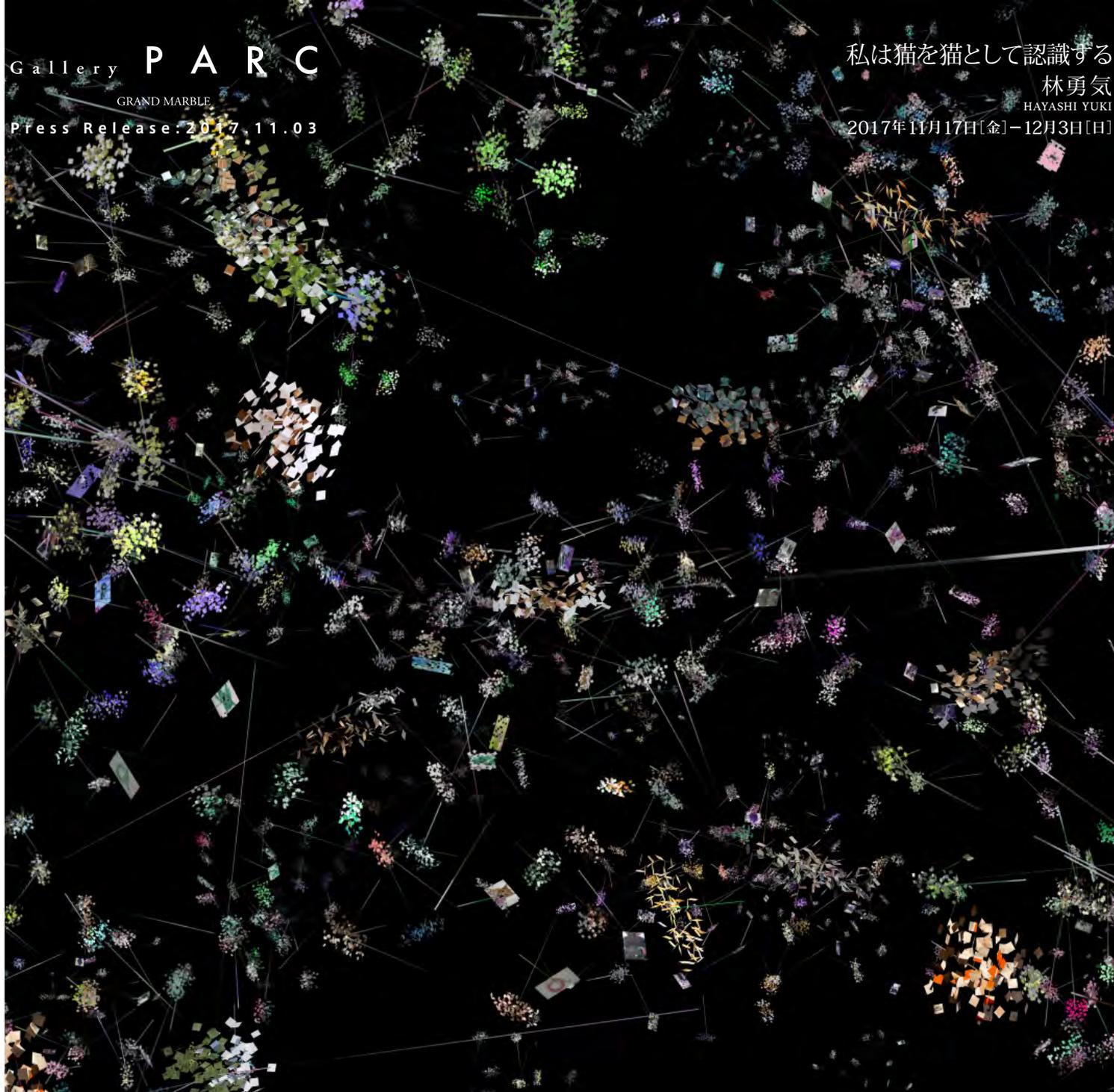
Press Release: 2017.11.03

私は猫を猫として認識する

林 勇気

HAYASHI YUKI

2017年11月17日[金] - 12月3日[日]



《IMAGE DATA - A to Z》 2017 video still

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【[info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com)】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

**展覧会名** 私は猫を猫として認識する: I recognize a cat as a cat.

**出展作家** 林 勇気 HAYASHI YUKI  
<http://kanyukuyuki.tumblr.com>

**会 期** 2017年11月17日[金] - 12月3日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

**料 金** 無料

**内 容** 映像作品の制作を手がける林勇気の個展。デジタル画像の在り方を問う《IMAGE DATA》の最新作と、様々な動物のドローイングをAIが組み込まれた画像生成プログラムによって猫のイメージへと変換させアニメーションを制作した新作《Chimera》を中心に展示。

**会 場** Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F [MAP](#)

**ア ク セ ス** 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

**問 い 合 わ せ** Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F  
TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= [info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com) HP= [www.galleryparc.com](http://www.galleryparc.com)



【広報画像】

《 IMAGE DATA 》

2016  
HD-Video, プロジェクター  
ギャラリーヤマキファインアートでの展示風景  
撮影: 田中健作



林勇気

1997年より映像作品の制作を始める。国内外の展覧会や映画祭に出品。自身で撮影した膨大な量の写真をコンピュータに取り込み、切り抜き重ね合わせることでアニメーションを制作している。そのプロセスと映像イメージは、デジタルメディアやインターネットを介して行われる現代的なコミュニケーションや記録のあり方を想起させる。

<http://kanyukuyuki.tumblr.com>

個展

- 2016 京都芸術センター (京都)
- HIROBA (京都)
- 2015 HAPS 東山 アーティスト・プレイズメント・サービス (京都)
- trace (京都)
- ギャラリーほそかわ (大阪)
- 安治川倉庫 FLOAT (大阪)
- Gallery TRI-ANGLE (宝塚大学 / 兵庫)
- 2014 シアターカフェ (愛知)
- 神戸アートビレッジセンター (神戸)
- 2012 柏プラネタリウム (千葉)
- 南山城村AIR 青い家 (京都)
- 2011 兵庫県立美術館 (神戸)
- sample white room (奈良)
- E&Cギャラリー (福井)
- 2010 ギャラリー名芳洞 blanc (愛知)
- ギャラリーヤマキファインアート (神戸) ('16)
- 2009 neutron tokyo (東京) ('12)
- 2008 ギャラリー揺 (京都) ('13)
- 世田谷ものづくり学校 IID gallery (東京)
- 2007 gallery neutron (京都) ('08, '09)
- 2004 ギャラリー三条 (京都) ('05, '06)

主なグループ展など

- 2017 「彼方へ Shizubi Project 6」(静岡市美術館)
- 「未来への狼火」(太田市美術館・図書館 / 群馬)
- 「港都KOBE芸術祭」(神戸空港駅、他 / 兵庫)
- 2016 「美術と音楽の一日 rooms」(芦屋市立美術館)
- 「PAT in Kyoto 京都版画トリエンナーレ」(京都市美術館)
- 「Art Basel Hong Kong, Film sector」(HongKong Art Center, agnès b. cinema / 香港)
- 「Japanisches Kulturwochenende」(CinéMayence/ドイツ)
- 「京都国際映画祭」(西本願寺 伝道院、他 / 京都)
- 「カサブランカ・インターナショナル・ピエンナーレ」(モロッコ)
- 「MOVING 2016」(クラブメトロ / 京都)
- 2015 「映像芸術祭 MOVING 2015」(HAPSで個展、京都芸術センター)
- 「アンカラ国際映画祭」(トルコ)
- 「NIPPON CONNECTION」(ドイツ)
- 「みんなのアート それぞれのらしさ」(みんなの森 ぎふメディアコスモス / 岐阜)
- 「アートでつなぐみんなの実験場 えのこじま仮設映画館」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター)
- 「Transient Visions: Festival of the Moving Image」(spool.mfg / アメリカ)
- 2014 「HOME PARTY 02」(みずのき美術館 / 京都)
- 「あなたがほしい i want you」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター)
- 「窓の外、恋の旅 - 風景と表現」(芦屋市立美術館)
- 2013 「溶ける魚 つづきの現実」(精華大学 ギャラリーフロール, ギャラリーPARC / 京都)
- 「歩く男」(CAS / 大阪)
- 「FILMS D' ANIMATION #1」(MAISON POPULAIRE / フランス)
- 「Human Frames showcase at Nuit Blanche 2013」(パリ市街地 / フランス)
- 「あなたがほしい i want you」(WELTKUNSTZIMMER / ドイツ)
- 2012 「恵比寿映像祭 映像のフィジカル」(BYTで参加 東京都写真美術館)
- 「映像芸術祭 MOVING」(Social Kitchen、他 / 京都市内)
- 「高尾小フェス」(旧高尾小学校 / 京都)
- 「アートラインかしわ」(柏プラネタリウムで個展 / 千葉)
- 「モニターとコントローラーの向こう側 - 美術とテレビゲーム -」(neutron-tokyo / 東京)

- 2011 「Human Frames」(Kunst im Tunnel / ドイツ, Substation / シンガポール)
- 「BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW」(webで公開)
- 「Drawing Exhibition ドローイングの距離」(CAP STUDIO Y3 / 神戸)
- 「PARIS FESTIVAL OF DIFFERENT AND EXPERIMENTAL CINEMAS (COLLECTIF JEUNE CINEMA / フランス)
- 2010 「ふれて / みる」(中京大学 Cスクエア / 愛知)
- 「松代現代美術フェスティバル Asian Art Film Program」(碌山美術館研成ホール、樋口邸 / 長野)
- 2009 「Re:membering Next of Japan」(Doosan art center, Gallery loop / 韓国)
- 「migratory - 世界に迷い込む -」(アートコートギャラリー / 大阪)
- 「白昼夢 Daydream」(愛知県美術館ギャラリー H, I 室)
- 2008 「Art Court Frontier 2008 #6」(アートコートギャラリー)
- 2007 「トランスメディアアール」(ドイツ)
- 「新進アーティストの発見 in あいち」(愛知芸術文化センター)
- 2006 「AMUSE ART JAM」(京都文化博物館)
- 「トロント・リアル・アジア国際映画祭」(カナダ)
- 2005 「裏・アートマップ」(京都芸術センター)
- 2004 「アウト ザ ウインドウ」(国際交流基金フォーラム / 東京, Project Space ZIP / 韓国)
- 「透過する音楽」(京都芸術センター)
- 2003 「STARTART001」(細見美術館 / 京都)
- 「香港国際映画祭」(香港)
- 「アジア・アメリカ国際映画祭」(アメリカ)
- 「ナッシュビル国際映画祭」(アメリカ)
- 2002 「イメージフォーラムフェスティバル」(新宿パークタワー / 東京, 横浜美術館 / 神奈川, 他)
- 「バンクーバー国際映画祭」(カナダ)
- 「高尾国際映画祭」(台湾)



《IMAGE DATA》

2016  
SD-Video, モニター  
京都芸術センターでの展示風景  
撮影: 表恒匡



《times》

2016  
HD-Video, プロジェクター, コピー用紙にレーザープリント  
京都芸術センターでの展示風景  
撮影: 表恒匡



《times\_tower》

2017  
SD-Video, モニター  
「港都KOBE芸術祭」(神戸ポートターミナルホール)での展示風景